

大阪市で「街の災害碑を巡るツアー」の解説と、その後の鼎談を行いました(2016/4/9)

テーマ：「災害にまつわる所作と対話」

場所：大阪市浪速区幸町・西区九条、アートエリアB1(大阪市北区中之島 1-1-1)

URL：<http://artarea-b1.jp/>

アートエリアB1主催の「街の災害碑を巡るツアー」において、災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野の川島秀一教授が、ナビゲーターとして大阪市浪速区にある安政地震の津波供養碑や、西区の室戸台風の供養碑など、災害碑を中心に「街あるき」を試みました。市民16名が参加し、なかには東日本大震災時に宮城県石巻市で被災したため大阪に移住してきた人も加わっていました。

その後、アートエリアB1の会場にて、川島教授(民俗学)と大阪大学の佐伯和人准教授(惑星物理学)、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの木ノ下智恵子特任准教授の3人による鼎談「地球と人の営みから見えてくる災害」を開催しました。川島教授は、災害の「供養碑」など、人々が災害死者とどのように向き合ってきたかについて話し、佐伯准教授からは、地球というレベルでの自然現象について分かりやすい解説がありました。文理の研究者双方と会場の参加者も交えて、人間にとって「災害」とは何か、という本質的な議論ができたことは、ひとつの成果となりました。



大阪市の災害碑を巡るツアーの解説



鼎談「地球と人の営みから見えてくる災害」

文責：川島秀一（人間・社会対応研究部門）